

新任教授のご挨拶

琉球大学医学部附属病院 形成外科 特命教授に就任して

琉球大学医学部附属病院 形成外科 特命教授 清水 雄 介



琉球大学医学部医学科同窓会の皆様、初めまして。平成27年2月1日付で琉球大学医学部附属病院の形成外科特命教授を拝命いたしました清水雄介と申します。この度、同窓会会長の蔵下要先生の取り計らいで、「南風」で皆様へご挨拶をさせて

頂く機会をいただきました。深く感謝いたします。

琉球大学医学部附属病院の形成外科診療科長として大変な重責を感じておりますが、誠心誠意をもって診療にあたり、良質な形成外科医療を提供し、関連診療科、関連病院のニーズに応えると同時に、研究・教育・社会奉仕の面でも琉球大学医学部全体の発展につながるよう精進する所存です。

元々、琉球大学には耳鼻咽喉科学講座の中に形成外科診療班がありましたが、診療科としての形成外科はありませんでした。2015年3月、病院機能を高める目的で、独立した診療科として附属病院内に形成外科が新設され、私の他に山崎俊(特命助教)、木内智喜(医員、7月赴任予定)の3人体制で形成外科診療をスタートしています。

私は平成10年に慶應義塾大学を卒業しました。同年、慶應義塾大学形成外科学教室に入局し、2年間にわたる形成外科、皮膚科、麻酔科、救急部研修を行い、さらに3年半にわたる一般外科、耳鼻咽喉科研修を行いました。その後小児専門病院(国立成育医療研究センター)を含む5つの総合病院で形成外科の診療に専心しました。その間、数多くの先輩医師から形成外科診療だけではなく、医師として、人としてのあり方を学んできました。平成22年からは慶應義塾大学形成外科のスタッフとして困難な症例を含む様々な疾患の治療を行い、形成外科全般に対応する力を身につけてきました。

形成外科は先天的、後天的なハンディキャップを機能面、整容面で改善することを目的としています。日本では昭和30年代に登場した比較的新しい科ですが、対象とする疾患は幅広く、現在では基本診療科として他科との複合的診療体制に欠

かせない役割を担っています。形成外科は再建外科、外傷、先天性疾患の3つの柱で構成されます。琉球大学医学部附属病院でも、この3つの柱に沿った形成外科診療を行いたいと思います。3つの柱とは

1. 再建外科

主に関連診療科からの依頼で頭頸部癌、乳癌、体幹部の腫瘍切除後に欠損した組織を他の皮膚・筋肉・腸管等で再建します。陳旧性顔面神経麻痺、子宮癌切除後の下肢リンパ浮腫、乳癌切除後の上肢リンパ浮腫、義眼床作成などの治療も積極的に行いたいと考えています。

2. 外傷

主に頬骨骨折、眼窩底骨折、上顎骨骨折、鼻骨骨折などの顔面骨骨折や、外傷後の変形などに対して治療を行います。

3. 先天性疾患

先天性眼瞼下垂、小耳症、口唇口蓋裂、頭蓋変形、漏斗胸、手足の変形、静脈奇形、母斑などに対して治療を行います。

以上の疾患の他に、他科で困難とされた症例も扱うため、多岐にわたる広範な知識と技量とアイデアが要求されます。整容面を治療するという本質から、診断学の側面は少なく治療学としての“手術”が形成外科の中核となります。手術では皮膚をきれいに縫合する、骨を切る、組織を移植するだけでなく、顕微鏡下で血管・リンパ管、神経を縫う技術(マイクロサージャリー)も必須で常に鍛錬が必要です。

今まさに産声をあげたばかりの若い科ですが、少しずつ琉球大学医学部の卒業生を仲間に加えていき、教室を成長させ、琉球大学医学部全体の発展に繋がりたいと考えております。将来的には琉球大学医学部附属病院の形成外科を、“世界で最も上手に手術ができる形成外科医の集団に仕上げたい”と本気で考えています。多くの素晴らしい後輩を育てることを通じて琉球大学医学部全体を活性化させることが、私を形成外科の診療科長として選考してくださった琉球大学の皆様への恩返しだと考えています。琉球大学医学部同窓会の皆様、これからも末永く厚いご支援とご指導を賜れると幸いに存じます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。